ENTERTAINMENT

『52ヘルツのクジラたち』
町田　そのこ/著
中央公論新社　2020年

クジラは互いの鳴き声で気持ちを通わせ、群れを作り生きています。しかし、世界でたった一頭“52ヘルツ”という高周波の声しか出ないクジラがいました。その鳴き声は他のクジラたちには聞き取れません。いくら鳴いても誰にも何も聞こえないし届かない。いつも独りぼっち…。

家族がいたのにその家族たちからいつも搾取され続けてきた女性・貴瑚（キコ）。家族の誰からも大切にされなかった彼女が、故郷を離れて海辺の町へ引っ越したときから、彼女の物語は大きく動き始めます。
いつかこの気持ちが誰かに届くかもしれない。いつかこの声が誰かに聞こえるかもしれない。寂しさをかかえ続けるすべての人に届いてほしい物語です。

映画『52ヘルツのクジラたち』
杉咲　花／主演　成島 出／監督
2024年3月公開予定

「ユースフルエイジ（Youthful Age）」はYA世代に送る、本・漫画・映画・音楽などのおすすめ情報を掲載した渋谷区立図書館が発行する定期刊行物です。

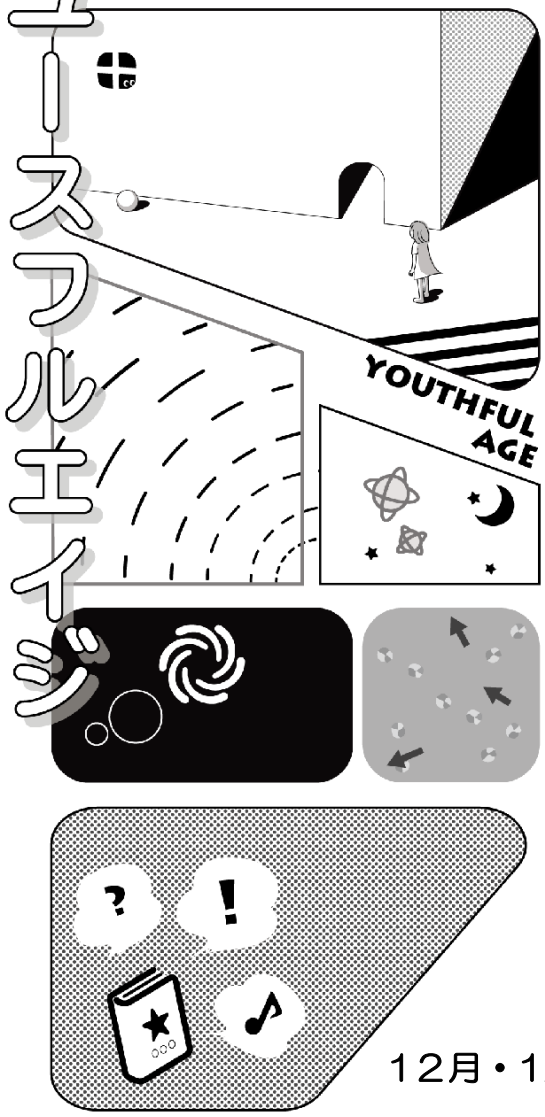
YA（ワイエー）とは…
Young Adult（ヤングアダルト）の略で、おおむね12歳から18歳までの人たちのことをさします。

ユースフルエイジ
2023年12月・2024年1月号【No.17】

発行／編集　渋谷区立図書館
株式会社図書館流通センター
発　行　日　2023年12月

渋谷区立中央図書館
電話　3403−2591
住所　渋谷区神宮前1−4−1

ユースフルエイジ



12月・1月号
【No. 17】

SHIBUYA CITY LIBRARIES

Recommended books

Pick Up!

人とAIと、そして ひと

～未来のあなたの隣にいるのは誰？～

『僕はロボットごしの君に恋をする』
山田　悠介／著
河出書房新社　2017年

「身体なんかどうでもいい。ずっと一緒にいたいんだ」
物語は2060年、ロボットが普及した近未来の話。主人公の健は研究所で開発した人間そっくりに造られたロボット4号を操作し、警視庁と共に治安維持の任務を任されていた。そんな中、幼馴染の妹で、ひそかに思いを寄せる咲の職場にテロ予告が届く。ロボット4号を通じ咲の警護にあたる健は、次第に4号と親しくなる咲を見て、複雑な気持ちを抱くようになっていった。テロを防ぎ、咲も守りたい。そう決意した健は驚きの一手に打ってでる…。好きな人のために、いてもたってもいられない。その行動は人間の最大の魅力。それを感じることができる作品。

『僕とアリスの夏物語』
谷口　忠大／著
岩波書店　2022年

AI研究者の両親と暮らす小学生の悠翔（はると）。ある日、家にアリスという少女がやってきた。悠翔と同じくらいの年齢に見えるが、自分からは何も話さず、ニコニコ微笑むだけ。彼女を連れてきた父の友人だという博士は、「アリスはまだ赤ちゃん」と言っていたけど、それってどういうこと？　人工知能についての詳しい解説を、「青春小説」と合わせることで読みやすくした、新しい形のAI専門書。

『パラゴンとレインボーマシン』
ジラ・ベセル／作
三辺　律子／訳
小学館　2021年

生まれつき色を識別できないことに思い悩む少年オーデン。叔父が開発したとされる色が見えるようになる機械「レインボーマシン」を探し始める。そんな中、家の物置から人工知能ロボット「パラゴン」を見つけ…。ユーモラスで人間臭いロボット・パラゴンの姿に、「人間らしさ」とは何かを考えさせられる作品。

New!

『リスペクト』
ブレイディみかこ／著
筑摩書房　2023年

2014年にロンドンで実際に起きた事件をモデルとした小説。ホームレス・シェルターに住んでいたシングルマザーたちが理不尽な理由で退去を迫られた。人種や世代を超えて女性たちは連帯して立ち上がり…。やるしかないんだという熱い気持ちが伝わってくる。

『「よく見る人」と「よく聴く人」』
広瀬　浩二郎／著
相良　啓子／著
岩波書店　2023年

目の見えない研究者と耳が聴こえない研究者。見える・聴こえる人が多数派の社会で、手話や対象に触れることで世界とつながってきた2人。互いの経験から、コミュニケーションを工夫することで世界が広がる可能性について語る。

COLUMN

AIができること　人間ができること

近年、ChatGPTや自動運転技術など、目覚ましいスピードで進化を続けるAI技術。今後様々な分野でAIと人間の置き換えが進むと言われています。AIが人間を超える、そんな未来の予想が現実味を増す中、今一度AIとは何か、人間とは何かを本を通して考えてみませんか？

左記の本では、AIによる東大受験への挑戦プロジェクトを通じ、AIと人間にできることとは何かを考察しています。東大合格は楽勝と思われたAIには読解力という越えなければいけない壁がありました。そこから見えてきたAIの限界と人間の強みとは…。そして現代社会の私達の課題とは…。

『ロボットは東大に入れるか』
新井　紀子／著
新曜社　2018年